

米国金融政策（2023年5月FOMC）

金融不安が根強い中で0.25%ポイントの追加利上げを決定

2023年5月8日

金融政策の引き締めが進み、利上げ打ち止めに近づく

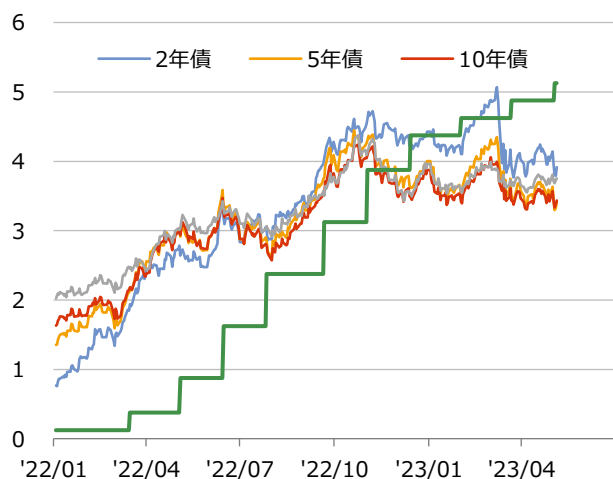
FRB（米国連邦準備制度理事会）は5月2-3日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを、4.75～5.00%から5.00～5.25%へ0.25%ポイント引き上げることと全会一致で決定しました。そのほか、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小も、計画通り実施していくことが再確認されました。

パウエル議長は「追加の政策引き締めがどの程度適切かはデータに基づいたアプローチで判断」とし、「幾分の追加引き締めが適切となるかもしれない」という前回声明文から引き締めトーンを一段と落としました。今会合では利上げ停止に関する議論は多くないとしつつも、議長は「金融政策は引き締めのめである」と指摘し、FRBが利上げ打ち止めに近づきつつあることを示唆しました。なお、議長は前回、貸出態度の幾分厳格化が「1回相当の利上げ効果を持ちうる」と発言した一方、今回は「概念的には政策金利を高く上げる必要はないだろう」としつつも「（効果の）正確な推計はほぼ不可能」と明言を避けました。

債券市場ではFOMC後に短期を中心に金利が低下しました。FF金利先物は次回6月FOMCでの追加利上げを織り込んでおらず、市場では利上げ打ち止めとの見方が強まっています。利上げ打ち止めに巡り、FRBは引き締め効果のラグや経済指標ならびに金融環境を注視しています。目先、金融引き締めの効果が目立って顕在化してこない事態となれば、6月FOMCでの追加利上げリスクが高まることに注意が必要です。

FF金利と米国債利回り

(%) (2022年1月初～2023年5月5日)

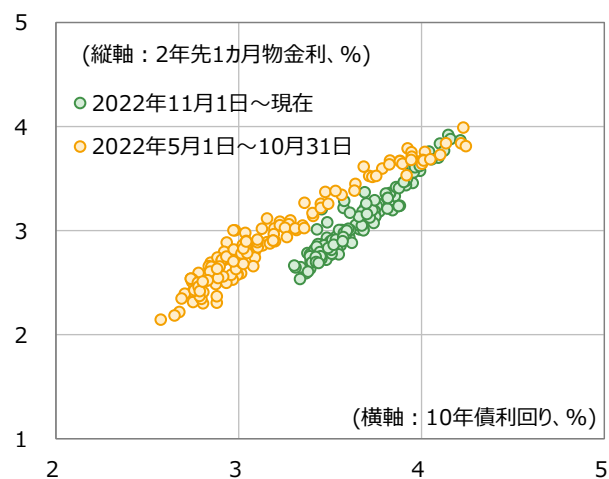


(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値

(出所) ブルームバーグ

米長期金利と2年先政策金利期待

(2022年5月初～2023年5月5日)



(注) 2年先1カ月物金利≒2年先の政策金利

(出所) FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management